

スタートの接触はいやなので安全に行くことにする。それが裏目に出てキャパの下になり、6〜7秒遅れになってしまう。第1レースで右海面が伸びたので右を使うこととし、丁寧に走らせると上マークではトップグループ。トップはアップウインド。上マークを回りきれば2位の位置。マークタッチの360°の方が2タック打つよりリスクが小さいのでヒッティングのつもりで加速し、強引にガイフウの前をラフして廻航する。

☆第3レース 南西の風6~7 m/s 14:00スタート 距離約 1.0マイル

ゲームプランは右海面を使うも良いスタートをして全艇をカバーしつつ振れタックを打って行く案で決定。

スタートは途中からきたドラゴンに上にこられ、スピードが鈍るが文句を言っても仕方ないので下艇をチェックしつつスピードに専念する。

甲竜がタックし危ないなと思っていたら「ワァーワァーワァースターボ」「ガッシャーン！」の音。甲竜の特攻攻撃に男クラリス死亡。いやな物を見てしまった。

2、3回振れタックして右海面へपोर्टで突っ込むとドラゴンがまたスターボで来ているので、ここは上品に「すみません、前、通して下さい」と声をかけ「どうぞ」の声で楽々全艇のトップに立つ。

でも、うしろにいたアップウインドはどうかと思いながら見ていると、案の定ポートのくせに品のない「どけどけ」の声。そんなコールでは品格のあるドラゴンはやけたりしませんね。衝突寸前アップウインドがタックし、そのまま止まってしまう。上マークは独走の形でスピランに入り、差を開き大西に「よっしゃ、ついにやったでジミー」と声を掛け「次のスピンドウンの段取りええな！」囁んで含めるように言い聞かせる。もうこの時ダントツトップフィニッシュが目に見え、頬が涙で曇ってしまう。

下マークは完璧なライン取りでスピンドウン。と思いきや、「ありゃ？」スピンはまたも海中へする
 すると入って行くではありませんか。大西はデッキでボーゼンと立っているだけ。目の前が真っ白にな
 るとはこのことで声も出ません。「何じゃこりゃ」レース艇はとっくの昔に遙か彼方に行くわ、流され
 て何と尼崎の防波堤は近づいて来るわで、岸壁に打ちつけられたら情けない状況。クルーからは「もう
 帰ろうや」の声。

しかしここでくじけたら男じゃないと思い「練習や！」と言い聞かせ走り出すものの最終順位は女クラリス、サンラック、アップウインド、男クラリスの順で我々は最終のぼりでSS、リッキーリーを抜いて7位でした。

さて、艇上では「オオボケやってくれたやないか、ジミー大西」でジミー君パンチ、ジミー君キック、電気マッサージ、毛剃り、生爪はがし、耳そぎ、鼻そぎと続き、明るい笑い声が大阪湾に遅くまで響いていましたとさ。“ヒェ〜ッ”

<総評>

いい風で安定していて大変楽しめました。上位と下位とではテクニックが明らかに異なっており、チョピーな海面ののぼりと、タッキングの上手下手が明らかに出ていました。

また追手は昨年で全日本で見せたバシュフォードや中野氏の真追手の走らせ方が特に重要なポイントになると思います。

ハンサムではメインはブームをサイドステイにあたるまで出し、ポールも一杯に出してアンヒールをかけて走らせていますが結構速いし、風の振れにも即座に対応できます。

セーリングワールド誌でもケンリードがダウンウインドの重要性を記載していますので、今後ダウンウインドセーリングがこれからレースシーンでは非常に重要になると思います。練習に励んでください。

また今回第3レースではドラゴンがレース海面にいましたが、ドラゴンに限らず他艇がいても邪魔者扱いせず、海上衝突予防法を主体に気持ち良く海面を利用していった方がJ-24の評判もレベルも品格も上がると思います。

最後に、レース運営を横山さん一人でやってもらっていますが、ご苦労される面もあり、人手不足でレースに出れない艇の方がいられたら、レース見物がてらに手伝っていただけたら幸いと思います。

コミッティー側からレースを見ると良くわかりますし、参加艇の中で人手のない所に手伝いもできると思いますので。

それではこれから暖かくなりますので本格的にレースを楽しみましょう。